

# 定点観察一丁点



2008.05.07



2008.10.02

東屋から砂嘴を横断する中道の突き当りの崖の上に目印のポールが立っている。ここがメインの定点観察点。(T点)  
崖の形状を海側から観察しつつることにより、波による浸食の進み具合を知ることができる。

2008年当時問題意識は情けないほど希薄で記録は少ない。



2008.11.13



2008.11.13

左図はほぼ正面を、右図は砂嘴先端方向を見ている。  
崖は3m近くあるが、中道の突きあたりは崩れていて人が上り下りできた。

2009年、この冬の荒波も容赦なかった。  
T点より砂嘴つけ根方向(南西)では数ヶ所で崖が食い破られていた。(U, V, W点など)  
はじめておとずれたのは4月の末。ポールには赤旗が翻る。  
T点もいくらか削られてそそり立ってはいるが、前年とくらべて形状に大きな変化はなく上り下りもできる。



2009.04.24



2009.04.19

冬に食い破られたU点

ほぼ毎月写真を撮るのだが、この年は10月までほとんど変化はなかった。  
いつ来てもさほど変わりが無いのに記録を撮り続けるのは、いくぶん退屈な作業ではある。



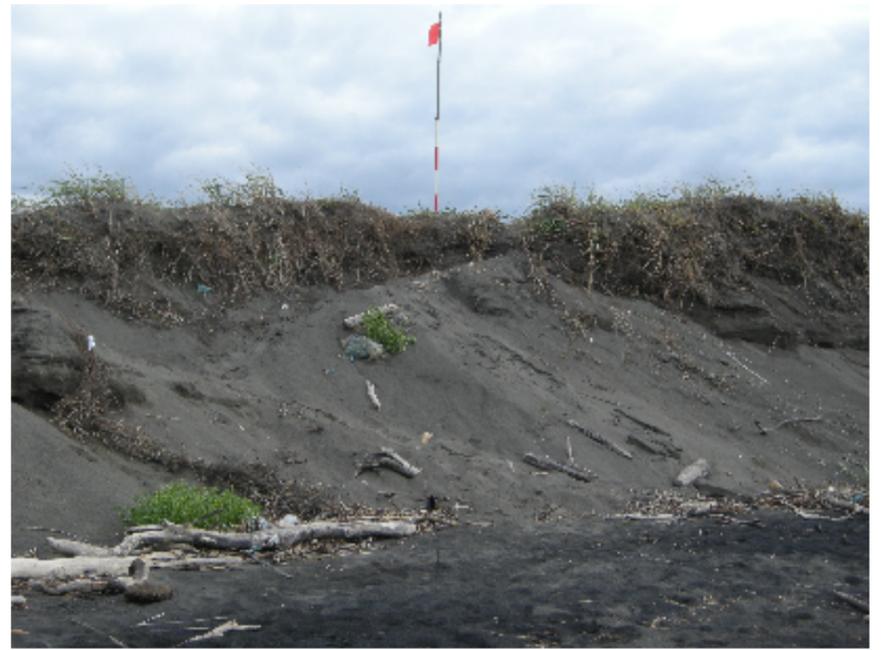
2009.05.29



2009.06.25



2009.07.29



2009.09.17



2009.10.10



2009.10.10

W点近くの崖の崩落

10月9日，超大型とされる台風18号がかすめていった。  
T点より砂嘴つけ根方向(とりわけW点近辺)の崖には荒々しい  
爪痕を残された。

T点では崖の下に数10cmの段差ができているくらいで，比較  
的平穩。

いきなり変化があったのは11月。  
T点からU点にかけて、崩された崖は切り立っていた。  
すでにT点での上り下りは無理。

しかし2009年を通して、T点（あるいは、ここから砂嘴先端方  
向にかけて）の崖の後退はたかだか2～3m程度だったと思わ  
れる。



2009.11.06



2009.11.06

U点からT点方向を望む



2009.11.30



2009.12.25

2010年1月から3月，乱暴な海だった。  
とりわけT点前後から砂嘴先端方向での浸食がいちじるしく，崖は20m以上後退し，同時に高さも失われていった。



2010.01.24



2010.02.21

2月には汀線(波打際)がT点の崖直下まで迫り，通り抜けるにも勇気が必要。正面からその姿を撮ることは不可能。  
目印の旗も失われた。



2010.03.18



2010.03.25

3月末までにT点の崖は10m以上後退。高さも2mそこそこに。  
旗は復活した。  
砂の堆積もあって，4月以降，崖の高さは50cm程度。  
徐々に風化しつつも状況は安定。



2010.04.24



2010.05.17



2010.06.13



2010.07.31



2010.09.13



2010.10.16



2010.12.28



崖の断面

4月から11月まで安定していたT点の状況が一変したのは12月後半。崖が垂直に削ぎとられ、同時に崖下に堆積していた砂が大量に持ち去られていた。

その結果、崖は高さ130cmほどに切り立って、断面には砂利の層がくっきりと確認できた。(『異質な地層』参照)

明けて2011年。1、2月の崖は深い雪に閉ざされていた。

3月、ようやく姿を現した崖は、雪に替って上端近くまで堆砂で覆われていた。断面の砂利の層はもはや見えない。

時には激しく崖を浸食し、また時には新たに大量の砂を運んでくる。波と風に翻弄されながら、浜はさまざまな表情を見せる。



2011.02.19



2011.03.28